



農のまちに生きる市民として 知っていてほしい生産者の思い。



1. 市民ふれあい農園 2. 鹿屋市農業まつり 3. おいもフェスカのや
4. かみのチャレンジファーム 5. こども料理教室 6. 地元産の有機小松菜を使った学校給食

**消費者に
求められること**

インタビューを伺う中で「どう
いう人が、どういう思いで農業を
していて、地元の食材がどれだけ
多くの食卓を支えているのか、市
民の方々に伝わってほしい。」と
いう話がありました。普段、何気
なく食べている食事。そのありが
たさを意識することなく過ごして
しまいがちですが、こうした食材
の一つひとつに農家の努力や思い
が込められています。

今回の取材を通して見えてきた
のは、農業が置かれている現状や
新規就農者の思いだけではなく、
私たち消費者に求められているこ
と。農業のまち鹿屋に生きる市民
として、農家の思いに目を向ける
ことが、価格だけではなく様々な
尺度での消費活動を促し、エシカ
ル（倫理的）な選択につながるの
かもしれません。

こうした消費活動が広がってい
くことが、地域全体の持続可能な
発展につながるっていくのではない
でしょうか。

Support [支援者]

農を守るために。

多くの関係機関が一体となって、新規就農者のサポートを行っています。では就農にあたっては、どのような要素が必要になってくるのでしょうか。お話を伺いました。



新規就農には「農地」、「資金」、「営農技術」、「設備・機械」など複数の条件を満たすことが必要になります。このうち営農技術は、研修事業の活用や農業法人等での勤務、農業大学校への進学などを通して習得することが可能です。また、物価高騰の影響から設備・機械の新設や資金調達が難しいなど厳しい状況となっています。そのため就農にあたっては、事業や資金の計画をしっかりと構築し、計画的に営農を進めていく必要があります。

厳しい時代だから
計画的に新規就農を

夢を持って新規就農した方々が、営農を継続していけるようにこれからも関係機関と一体になって、様々な面からサポートしていきます。

鹿屋市の過去5年間の新規就農者数は年間10人前後で推移しており、その大半を畜産の「肉用牛」と耕種の「施設野菜」が占めています。農業産出額の7割を畜産が占める鹿屋市では、肉用牛の後継者としての親元就農が多く、また施設野菜では、経営が安定しているピーマンやきゅうりの新規就農者が多い傾向となっています。

毎年、安定的に一定数の新規就農者を確保できているのは、農業が盛んな地域であり、農業を行うのに適した環境があるからだと考えられます。今後は農地や設備・機械を離農者から継承して就農するケースがさらに増えていくと思います。そういう意味では、農業が盛んな地域では盛んに継承が行われやすいので、多くの人にチャンスがあると考えるのではないのでしょうか。

農業が盛んな地域だからこそチャンスが

Support system

新規就農者就農支援事業

本市で新たに就農しようとする人が、就農のための農業研修を受ける際に必要な生活資金や、研修後就農する際に必要な経費の一部を助成するもの。



対象者	次の全ての要件を満たす人 ・市内在住又は今後本市に居住し、中核的農業者となり得る人 ・18歳以上50歳未満の人 ・研修終了後に直ちに就農する人
研修品目	ピーマン、スプレーギク、畜産 等
研修時生活支援(月額)	単身者：150,000円以内 夫婦：200,000円以内
就農開始支援(就農時)	耕種：500,000円 畜産：1,000,000円
研修期間	耕種：原則として1年間 畜産：原則として2年間